

先導的薬剤師養成に向けた多職種間連携学習の実践

○飯村 菜穂子¹, 影向 範明¹, 福原 正博¹, 安藤 昌幸¹, 北川 幸己¹, 杉原 多公通¹, 押木 利英子², 松井 由美子², 永井 洋一², 遠藤 和男², 金谷 光子², 西川 薫², 中山 和美², 渡邊 榮吉², 真柄 彰², 吉嶺 文俊³, 藤澤 純一³, 小川 洋平³, 井口 清太郎³ (¹新潟薬大薬²新潟医療福祉大, ³新潟大医歯学総合病院)

【目的】医療は益々高度化し、新規の治療法や有効な薬剤が発見され、多くの人々が救われる時代になった。また予防医学の発展も並行し未然に疾患を防ぐことも確立されはじめ医療の発展は多方面に渡っている。しかしその反面で我が国は世界的にも上位に位置する超高齢社会へと突入しそれに伴い特に慢性期医療へと変化せざるを得なくなってきた。このような状況に対応出来る高度な知識・技能を修得した高い倫理性をもち、各医療人と協働できる薬剤師の養成が求められている。そこで今回、新潟大学や新潟医療福祉大学が主導している医療人教育、多職種間連携教育プログラムに新潟薬科大学薬学生が参加し、大学間、学部・学科間の垣根を越え多職種間連携、協働実践等々を学んだ。その学習意義、効果について報告する。

【対象と方法】薬学生の4,5,6年生を対象に多職種間との協働実践の学習を行った。医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、理学療法士、管理栄養士、社会福祉士等を目指す他大学、他学部、他学科の学生と共に模擬的に医療チームを形成し、フィールドワークを行いながら見学、体験学習し、グループディスカッションにより相互の理解を深めながら、そこでの課題、問題点の解決法の検討を行い、患者様や対象者様に対して適切なケア、QOL向上のための提案を行った。

【結果と考察】本学習を通じて学生達は、患者様や対象者様ときちんと向き合いその方々の声をしっかりとらえる力、またそこで何がおきているのか、何が問題なのかを的確に抽出できる能力が必要であること、また専門性ばかりを主張するのではなく他職種医療人との情報交換、相互理解を深めていくことが今後の医療発展のために必要であること学んだ。今回のような学習は薬学生にとって多職種連携・チーム医療の大切さや地域医療の魅力を肌で感じるができる有意義な取り組みであったと思われる。